



だより



R8.5.26 Vol.8

子供たちを守る

朝「いってきます!」と家を出た子供が「ただいま!」と元気に帰るまで、私たち教員は子供を守ることに全力で取り組んでいます。さまざまな危険がある中でも登下校中の時間帯は特に神経を尖らせる場面でもあります。

気温も上がり始め、子供たちの服装も夏らしくなってきましたね。ここ数年、少し気になるのが、肩回りやデコルテが大きく出るタイプの服装です。流行りもありますし、可愛い服を着たい、着せたいというお気持ちもよくわかります。休日、家族で出かけられるときには、おしゃれを楽しむのはとてもすてきなことだと思います。ただ普段は肌が出やすい服はなるべく控えていただくとありがたいです。どこでだれが見ているかわからない時代ですし、紫外線対策の面でも心配です。取り返しがつかない事態につながる可能性はひとつでも減らしておきたい。子供たちを預かる校長としての私の願いです。

置かれた場所で…

登校指導中、ふと足元を見ると、アスファルトの上に芝桜が…。「?」めくってみると、アスファルトの割れ目から力強く伸びていました。「水は?」ちょうど屋根の雨水が出てくる場所でした。すごいですよね。

我々組織で働く人間は置かれる場所を選ぶことはできません。極端に言えば紙切れ一枚で人生が大きく動くこともあります。が、選ぶことはできなくても「**そこでどう生きるか**」は自分で変えることができます。

4月。新たなスタートを切った方も多いと思います。思い出深い学校とはいえ、私自身も戸惑いながらの毎日です。ただ私たちと同じように子供たちもまた自分の担任を選ぶことはできません。校長として、子供たち一人ひとりが自分の花を笑顔で咲かせる学校を作ること。それが私の「置かれた場所」で果たすべき一番の役目だと感じています。

四方山話松蔭 ver. 其の八(運動会!サイコーでしたね!)

今年の運動会はいかがでしたか?体育主任の凌先生を中心に先生たちと子供たちが練習に取り組む姿をずっと見てきました。はじめは小さかった声が次第に大きくなり、照れくさそうに踊っていたダンスも笑顔が増え、楽しさを感じるようになってきました。昼休みには紅白リレーの練習に一生懸命取り組む子供たちの姿もありました。そんな中、こけて膝をすりむいた1年生に付き添い、水道で膝についた土と一緒に洗ってやっている6年生、湊君の姿に心が温かくなりました。日差しが強くなり、後半かなり暑い中での練習になりましたが子供たちも職員も一生懸命取り組んでいました。

そして本番、心配されていた雨も遠のき、絶好のコンディションでの開会です。子供たち一人ひとりの顔を見ると、どの子も真剣に一生懸命に、そして何より運動会を楽しんでいたように思います。

その前日だったでしょうか。教師をしている弟と少し話す機会がありました。「練習中、返事や歌の声を大きくしなさい!と厳しく言うと確かに子供たちはがんばる。でもそれって教師の自己満足ではないか?」そんなことを言ってきました。兄貴であり、一応先輩教師である私は少し鼻を膨らませながら、「親愛なる弟よ!その気持ちはよく分かる。子供たちに真摯であろうと思えば、その疑問にぶつかるだろう。偉大なる兄もそうだった。」「…兄ちゃん…もうええわい…。」「ちょっと待て!真面目に話すけん!」私はこう考えています。例えば『しっかり声を出すこと』『正しい姿勢でいること』は科学的にも心身に良い影響を与えることが示されています。そしてそれは自分自身を律することにつながるひとつだと思います。厳しいだけの指導、恐怖で縛る指導はそれこそ大人の、教師のエゴに他なりません。しかし、信頼関係の中での厳しさはその先に子供たち自身に達成感や成就感をもたらしてくれるのであれば、必要なものである。運動会の子供たちの笑顔がその答えだと思います。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。